スクラムを組んで！
寄居町青少年健全育成町民会議

寄居町青少年健全育成町民会議（矢部伸昭会長）では、青少年健全育成を広域的、総合的に推進するために、町内の学校やＰＴＡ、民生委員・児童委員などの青少年関係団体・機関と連携し、活動を展開しています。

問い合わせ／生涯学習課（☎581・2121内線532）へ。

平成27年度　活動報告

■6月　総会・研修会

総会に併せて実施した研修会では、寄居城北高校の浅海校長先生を講師にお招きし「高校教育を取り巻く現状と小中高の連携の必要性について」というテーマでご講演をいただきました。また、寄居警察署の瀬戸生活安全課長から寄居警察署管内の少年非行情勢について情報提供をいただきました。

■7月　青少年の非行・被害防止　特別強調月間キャンペーン

町内３中学校区の児童生徒健全育成協議会と共に、町内の駅前等でキャンペーンを行いました。３日間で延べ92人が参加し、1200個余りのキャンペーン物品を配布するなど、青少年の非行・被害防止を呼びかけました。

■8月　視察研修

芸術による青少年の情操教育を図るため、人間国宝美術館（神奈川県）を訪問しました。参加者から「出張美術館in寄居」の成功に向け、積極的な意見が出されるなど、芸術文化の見識を深める充実したものとなりました。

■広報活動

４月に「春のあんしんネット・新学期一斉行動」や薬物乱用防止活動、11月に「いじめ撲滅強調月間」、３月に「スクラム」を広報よりいや町公式ホームページに掲載するなど、広報活動を積極的に行いました。

■その他

寄居町防犯大会への参加など、今年度も地域に密着したさまざまな活動に取り組みました。

「男衾地区健全育成の推進」

男衾地区青少年健全育成協議会長　吉田　芳雄

男衾地区青少年健全育成協議会の今年度の主な活動について、述べてみたいと思います。

最初に、年2回実施している講演会についてです。

第一回の講演は、元寄居小学校長の阿川甫世先生をお招きし「ダメなものはダメ」という演題で、会津藩の教えである「ならぬものはならぬ」の言葉を引用しながら話されました。今の教育の主流は褒めて伸ばすことであり、それもまた良いことではあるが、子育ての本質は「ダメなものはダメ」として、我慢する心を身につけさせることも大事だと力説されました。さらに「家庭は子どもにとっての最高の安らぎの場である」と話され「子どもに過度の期待をせず、心の声に耳を傾けつつ、地域の皆で見守っていきたいものです」と締めくくられました。

第二回の講演は、寄居小学校の関根宏校長先生をお招きし「人との出会いに感謝して」という演題で、ご自身の今日までの歩みについてユーモアを交えて話され、会場は和やかな空気に包まれました。「人生の節々や岐路において良き人との巡りあわせやアドバイスがあり、今の自分に導いてくださり、ただただ感謝です」と話されました。人が成長するうえで多くの人との出会いと、良き助言に素直に心を傾ける姿勢が大切であると再認識しました。

今年度のもう一つの主な活動は、児童・生徒の安心・安全に力を注ぐということです。男衾地区には三百軒以上の「こども110番の家」があり、子どもの安全を見守ってくださっています。その中で、防犯の面で特に役立っているのが「のぼり旗」です。区長会の協力を得て、各区の家庭にたくさんの旗を立てることができました。

地域全体で児童・生徒の安全を見守ることは、青少年健全育成協議会として、重要な役割であると認識しています。多くの皆さんのご理解とご協力をいただきながら、これからも地域に根ざした健全育成の推進を図っていきたいと考えています。

▶こども110番の家のぼり旗

「寄居町で唯一の高等学校として」

県立寄居城北高等学校　校長　浅海　純一

本校は、平成20年4月に地域に信頼される学校を理念に開校し、この間、近隣の寄居中学校、桜沢小学校と桜沢駅での「花いっぱい運動」「朝のあいさつ運動」を行い、町内の青少年健全育成にも微力ながら協力させていただいています。また、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に取り組んでおり、総合学科の特色を活かした学習をとおして生徒の「知」の力を高め、関東・全国大会に出場する部活動をはじめ、文化部も含め多くの部が積極的に活動し、健やかな体の形成に取り組んでいます。

さらに、〝人とのコミュニケーションはあいさつから〟をモットーに豊かな人間性の育成にも努めています。小・中学校では当たり前であった「おはよう、ありがとう、失礼します、すみません」が高校生になると素直に出てこなくなります。しかしながら、現代の風潮を見ていると、改めてその大切さを示すことの必要性を感じ、明るく元気な城北を実現させるべく、教育に取り組んでいます。

一方、世の中の動きを見ると、世界の約90％の国が18歳から選挙権を有しており、日本でも夏の参議院選挙から、高校に在籍していても18歳になった時点で選挙権を持てるようになります。本校では、昨年12月に、3年生の生徒5人が寄居町議会議員の方と、若者の選挙や政治への興味・関心に関する座談会をさせていただきました。席上「あなたが議員だったら今住んでいる町をどうしたいか」との問いに、「コミュニケーションがとれる町にしたい」「知らない人とは話しちゃダメみたいな風潮が世間にはあるが、近所のおじさんに〝こんにちは〟って話しかけられるような町にしたい」という答えが相次ぎ、生徒たちの地域愛を再認識するとともに、主権者教育の重要性を強く感じた次第です。

以上のことを踏まえ、寄居町にある唯一の高等学校としてさまざまな機関との連携を深め、青少年の健全育成に貢献するとともに、町内の皆さんからもっと愛される学校になれるように頑張ってまいりたいと考えています。

▶小中高3校合同でプランターへの植栽

Pick UP

昨年12月に開催された「出張美術館in寄居」では、地域連携の一環として、寄居城北高校の生徒さんに会場係をお願いしました。そこで活躍した生徒さんに感想をお聞きしました。

寄居城北高等学校3年　牧　祐帆さん

寄居城北高校からは生徒24人が出張美術館の会場係として参加しました。この美術館には絵画や水墨画、日本人形、骨董品などさまざまなコーナーがありました。私はその中の水墨画と絵画のコーナーを担当しました。事前に美術学芸員の方の説明を聞いたり、作品解説を読んだりして、来場者の方からの質問に備えました。二日間にわたるこの出張美術館に、来場してくださった方の人数は、延べ8000人を越え、寄居町の方々の美術への関心の高さに驚かされるとともに、少しでもこの行事に貢献できたことに喜びを感じました。来場された方々にいただいた言葉や笑顔を忘れず、また何かの機会があればお手伝いをしたいと思っています。

「地域を担う子どもたちへのメッセージ」

寄居町ＰＴＡ連合会長　津久井　大雄

インターネットを通じてバーチャルな体験はいくらでもできますが、実際に経験するとしないとでは大きな違いがあるものです。「積極的に何でもチャレンジ」「動けば何かが変わる」と私は考えます。しかし、活動しても断られたり、理解してくれなかったりすることもあると思います。でもこれは、説明が不十分であったり、内容の価値が伝わっていなかったりすることが原因ではないでしょうか。相手が疑問に思うことにしっかり答えてあげれば思いは伝わると思います。

個人や団体の信用を得ることは大事です。今お世話になっているＰＴＡも消防団でも、信用がないと活動に対して誰も興味を持ってくれないし、支援もしてくれません。信用を得られるように、取り組んだ活動はしっかりやるべきだと思います。そして、日々変わる新しい情報を取り入れることが大事です。

私は、自分が生活している仕事、家庭、地域社会を有効に活用できるように意識して行動しています。自分では気付きませんが、これから先にあなたを必要として待っている人、迎えてくれる人がいると思います。これが地域づくりの場かもしれません。「寄居とそこに住む人は、無限の可能性を持っている」と私は思います。

結びに、日ごろからＰＴＡ活動と健全育成活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。この場をお借りしまして、心より感謝いたします。

▶朝のあいさつ運動の様子